

2024年5月10日掲載

シルバー産業新聞

ライター：栗原道子氏  
(シニア住まい塾代表)

ラポーレ駿河の紹介記事

最終回

わたし自身の終の住処

栗原道子

「ラポーレ駿河」(静岡市)

環境もよくホテルのようなケアハウス

ケアハウスは同じ時期に建てた施設でも、外見・中身とも大きな違いがあります。

私は「年金だけで暮らせる終の住処」の本を出す際に、約70軒のケアハウスを見ましたが、同じ制度のもとで建ったケアハウスも、県や市によって、さらには事業主によってかなり違いがありました。運営法人や施設長さんの努力によっても清潔度は違い、入居者の笑顔や活気に違いがあるのを感じました。

その中で、私が終の住処にしたいと思ったケアハウスは、入居者は運行時刻を把握しながら上手に外出しています。



「ラポーレ駿河」

ここは外観・内部とも清潔でホテルのようです。植木や庭の造りも職人さんの手が入っているのがわかります。桜の時期には庭中がピンク一色になり、各階の廊下の片側はガラス張りなので、廊下もピンクに染まるそうです。

出入り自由で靴のまま入れますがどこも清潔。入居者に聞くと、管理されているという感覚がなく自由でいられる、各個室のベランダ側の大窓や網戸の掃除も施設側でしてくれて助かるということ。



明るく落ち着いた雰囲気の共用スペース

思うような雰囲気でも、食卓にも工夫があり、テーブルやイスはそれぞれ高さや座り心地が違ったり、様々です。

静岡駅まで行く松坂屋など色んなお店もあり、バスで買い物に行く人も多しとか。歯科や眼科はバスで通えます。

入居者は明るい方が多く、昨年の秋にはみんなバス旅行を楽しんだそう。

ラポーレ駿河から5分ほど歩いたところに1軒だけケーキ屋さんがあります。そのケーキ屋さんの向かい側にはアユ釣りができる渓流があり、小さな神社なども自然豊かなところなんです。

会員さん(女性、60代半ば)がいました。以前から北海道にあっていてニセコでスキーをした、オホーツクで流水をみた、富良野の花畑も...と、自分でプランをいっぱい持って、北海道にさっそうと飛び立ちました。

それまでの生活で「独り暮らし」と「ひとり旅」には慣れていて、会社勤めをしながら天気の良い休日には大磯や鎌倉を一人歩きし、映画や美術館にも独りで行き、一人で決めて一人で実行する方でした。

お風呂は温泉宿のようで、さらに各階に個浴もあり体調に応じて使用することができます。夫婦部屋にはリビング、寝室、和室の3室があります。食堂はホテルの食堂かと思ってしまうほど、皆さん療養型病床の売店で日用品などを買っています。

静岡駅まで行く松坂屋など色んなお店もあり、バスで買い物に行く人も多しとか。歯科や眼科はバスで通えます。

入居者は明るい方が多く、昨年の秋にはみんなバス旅行を楽しんだそう。

ラポーレ駿河から5分ほど歩いたところに1軒だけケーキ屋さんがあります。そのケーキ屋さんの向かい側にはアユ釣りができる渓流があり、小さな神社なども自然豊かなところなんです。

会員さん(女性、60代半ば)がいました。以前から北海道にあっていてニセコでスキーをした、オホーツクで流水をみた、富良野の花畑も...と、自分でプランをいっぱい持って、北海道にさっそうと飛び立ちました。

それまでの生活で「独り暮らし」と「ひとり旅」には慣れていて、会社勤めをしながら天気の良い休日には大磯や鎌倉を一人歩きし、映画や美術館にも独りで行き、一人で決めて一人で実行する方でした。



温泉宿のようなお風呂の入口

はそこを賃貸にしました。北海道のケアハウス暮らしは年金でまかない、旅や食へ歩きは貯金で間に合う範囲で楽しんでいました。老いが進んだら横浜のマンションを売って、その範囲内で入居する、と将来設計も立てていました。

「ラポーレ駿河」に入居一時金120万円、月費用：事務費(サービス提供費)は、利用者の前年度の所得に応じて段階別。社会保険料や租税を引いた額が年収150万円以下の方は月1万円。他に生活費(食費)、管理費を入れて月額6万1000円、10万7000円の間で段階別。静岡市葵区富沢1542-46、054-270-1711。



食堂のいすの高さは個々に違います